

全日本フォルクローレ・フェスティバル「コスキン・エン・ハポン 2024」開会式 参加報告

保坂 庄司

去る10月12日(土)福島県川俣町中央公民館にて開催の掲題開会式に参加しました。

本フェスティバルは主催「ノルテ・ハポン」、共催「川俣町教育委員会」他により川俣町にて略毎年開催され、1975年(昭和50年)初回以来今年は第47回を数える全国規模の中南米音楽祭です。



「コスキン・エン・ハポン」はフォルクローレ・フェスティバルの本場アルゼンチンのコルドバ州コスキン市にあやかり名付けられたものです。開会式では来賓のエドゥアルド・テンポーネ大使が、祝辞の大部分を日本語でスピーチされたほか、本フェスティバルの貢献者でキーナ演奏者の東出五国氏に共和国大使館賞を贈呈して、

満場の拍手を浴びていました。藤原一二町長は、アルゼンチン・コスキン市との姉妹都市協定締結式を12月19日に在東京アルゼンチン大使館にてオンライン形式で行うと公表しました。コスキン市長のメッセージビデオが上映され、本場コスキン音楽祭の大観衆の映像に、会場内で歓声が上がりました。また、主催者代表斉藤寛幸氏から紹介された遠来のゲスト、ラウル・オラルテの一際美しく澄んだケーナの音色が満場を魅了しました。



ラウル・オラルテ氏

開会式に引き続き、地元や全国各地から参加の各グループによるフォルクローレ演奏や演舞の競演が始まりました。地元のダンスグループでは高齢女性達が真剣な表情で演舞する様が、また演奏では上級生たちに交じって小学2年生の女子がリズムよくボンボを叩く姿が、夫々印象的で、地元で幅広い年齢層にフォルクローレが浸透していることを目の当たりにしました。優雅で美しい群舞を披露したフォルクローレ・ダンス歴10年の女子大学生が「いずれはアルゼンチンのコスキンで踊りたい」と明るく抱負を語っていました。



全国各地からの参加グループは総勢 150 組に上り、その演奏・演舞は町内 3 会場に分かれ 3 日間に亘り繰り広げられ、ケーナとチャランゴにボンボの音色が町に満ち溢れる由、また第 2 日の審査会ではアルゼンチン・コスキン市でのフェスティバルへの日本代表グループが選出されるとのことでした。



中央公民館前の広場には 10 店ほどの模擬店舗が並び、アルゼンチン等の民芸品と楽器に川俣町特産品等が展示・販売されていました。



若き日の私がコスキンを含むアルゼンチン北西部各地を旅した時から丁度 50 年、福島県のだかな町がフォルクローレの熱気に包まれる姿に感動すると共に、日亜文化交流振興の高いポテンシャルティを見たように思いました。

(ほさか しょうじ：当協会常務理事)